

旧生活家庭館解体工事（アスベスト除去工事）の概要

及び、アスベストが不適切に処理された経緯と対応について

旧生活家庭館（大集会室）の経緯

➤ 建設 昭和 44 年

➤ アスベスト除去工事 昭和 63 年

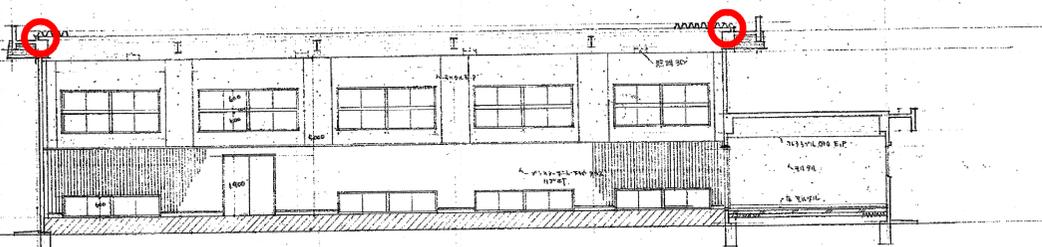
- 断熱材（トムレックス／アスベストを含有する吹付け材）の撤去
 - ・ 今回の工事に際し調査を行った結果、アスベストが含有していることを確認（H31.3 調査）
- 断熱材（パーライト／アスベストを含有しない吹付け材）の再吹付け
 - ・ 今回の工事に際し調査を行った結果、アスベストが含有していないことを確認（H31.3 調査）

➤ 屋根改修工事 平成 15 年

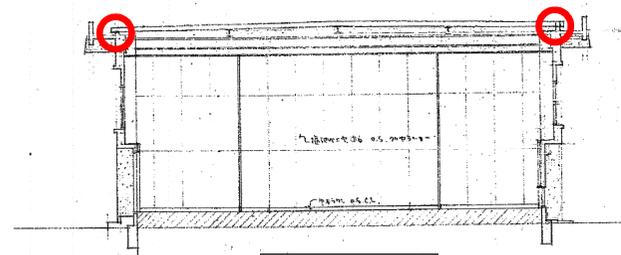
- 金属屋根の腐食破損による雨漏りを補修するため、既設屋根の上にカバー工法でもう 1 枚金属屋根を貼る工事



大集会室の断面図 (○: アスベスト含有吹付け材が残っていた箇所)

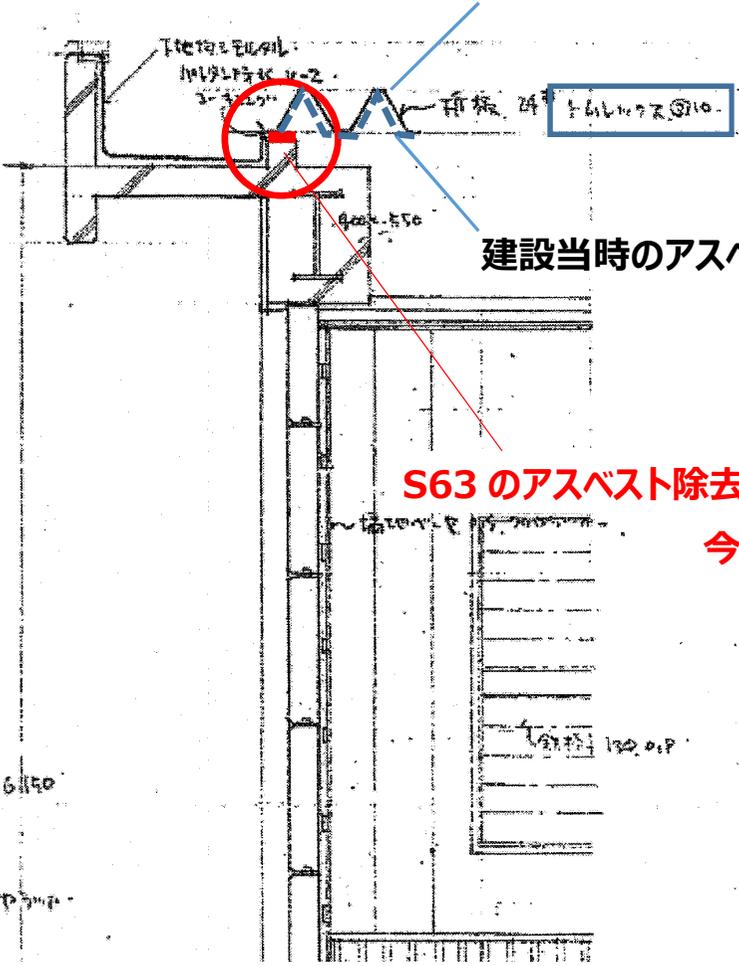


東-西断面図



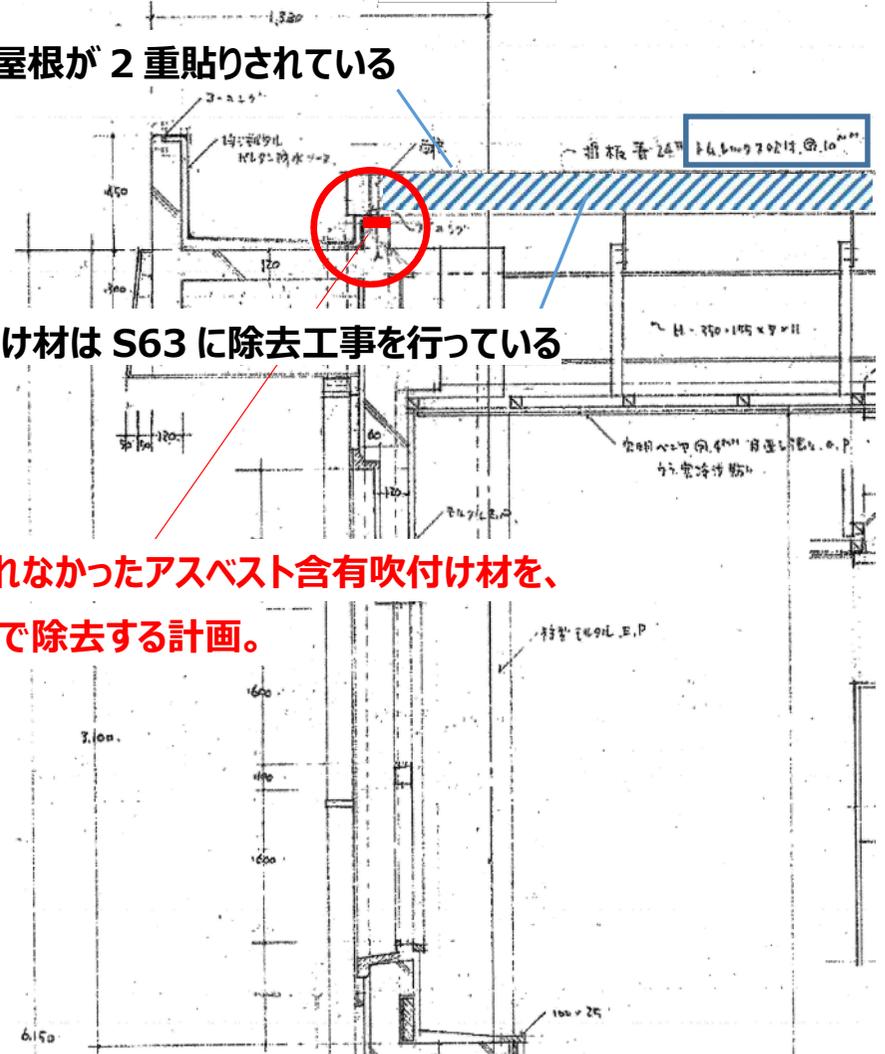
南-北断面図

H15の屋根改修工事で、金属屋根が2重貼りされている

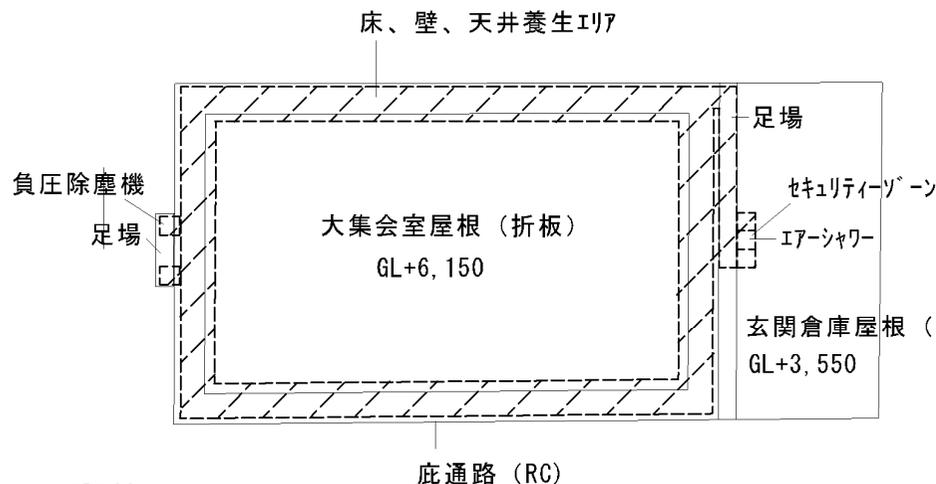


建設当時のアスベスト含有吹付け材はS63に除去工事を行っている

S63のアスベスト除去工事で取り切れなかったアスベスト含有吹付け材を、
今回の解体工事で除去する計画。



今回の工事で計画したアスベストの除去手順



① 事前調査

カバー工法による上部金属屋根の取り外し。

撤去工事を始める前に、天井内にアスベスト含有吹付け材が残っていないか目視で確認。

また、天井内にアスベスト粉じんが飛散していないか調査・分析を行う。

② 仮設工事

アスベスト除去作業のための隔離措置など。

(作業エリアの密閉隔離、負圧除塵機の設置、セキュリティゾーンの設置 等)

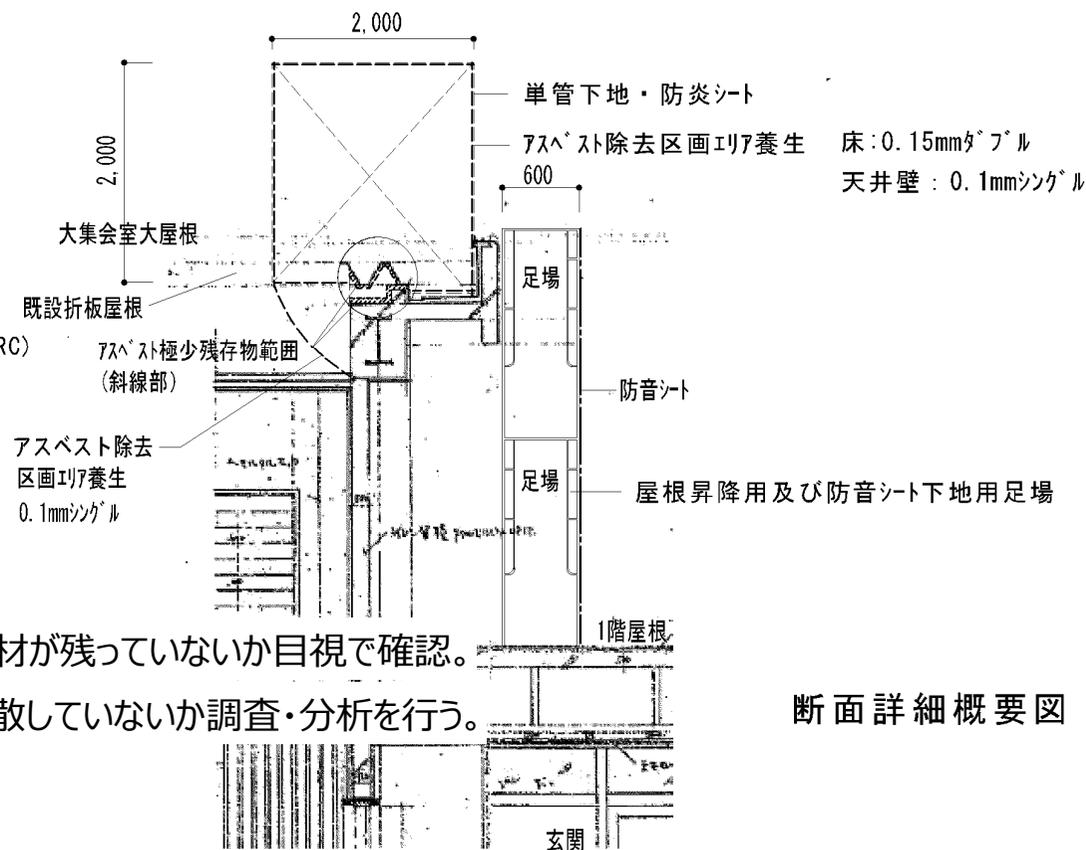
③ 除去工事

アスベスト除去作業エリア内の、建設当初の下部金属屋根を切り取り折り曲げ。

粉じん飛散抑制剤をアスベスト残存面に塗布し、湿潤状態としたうえでアスベスト含有吹付け材を除去。

④ 除去後の確認

作業エリア内で粉じん濃度測定を行い、アスベスト粉じんが残っていないことを確認したうえで隔離措置を撤去。



断面詳細概要図

✚ 発覚後の対応

アスベストの除去において、不適切な処理が確認された令和元年 9 月 27 日に以下の措置を指示。

- ① すべての作業を即時中止すること。
 - ② 残存するアスベストを固化、シートで飛散養生したうえで、撤去した屋根面全体をシートで覆うこと。
 - ③ 搬出した金属屋根材を、付着している可能性のあるアスベストを固化養生し、すべて回収すること。
 - ④ 周辺のアスベスト粉じん濃度の測定を行うこと。（報道発表資料②）
- ※ ①②④については翌日までに作業を完了。
③についてはすでに溶融されており回収できなかった。



- 梁上に残っていたアスベスト含有吹付け材の状態（9/27 発覚時の現場写真）

✦ 是正措置を完了した現在の状況

豊橋労働基準監督署・市環境保全課の指導により、建物全体を隔離する措置を行い、令和元年10月30日に検査を完了しました。



屋根面及び外壁開口部を隔離養生しています。



梁上に残っているアスベスト含有吹付け材は、固化し隔離用ポリシートで養生した上から、屋根面全体を隔離用ポリシートで覆いし、さらにブルーシートを2枚張りして風で飛散しないように補強しています。